

令和元年度国内需要安定化事業
「国内富裕層向けプロモーション事業」
実施報告書
【概要版】

令和2年3月

発行

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課

受託事業者

株式会社オリコム・株式会社アール・ピー・アイ 共同企業体

目次

I. 事業概要	3
1. 事業目的	4
1) 事業内容	4
2) 事業全体の構成	5
2. 実施内容	6
1) 富裕層市場向け雑誌への出稿	6
(1) 媒体選定理由	6
(2) 概要、基本データ	6
(3) 雑誌掲載ページ 9/27 発行号 (カラー見開き 8p)	7
(4) web 掲載面	11
2) 富裕層向けインフルエンサーの招聘	12
(1) 選定理由	12
(2) 概要、基本データ	12
(3) 掲載記事 (一部抜粋)	13
3) 県内観光関連事業者ネットワーク会議の開催	20
(1) 第一回ネットワーク会議	20
(2) 第二回ネットワーク会議	24
(3) 第三回ネットワーク会議	31
(4) 第四回ネットワーク会議	49
II. 事業総括	66

I. 事業概要

1. 事業目的

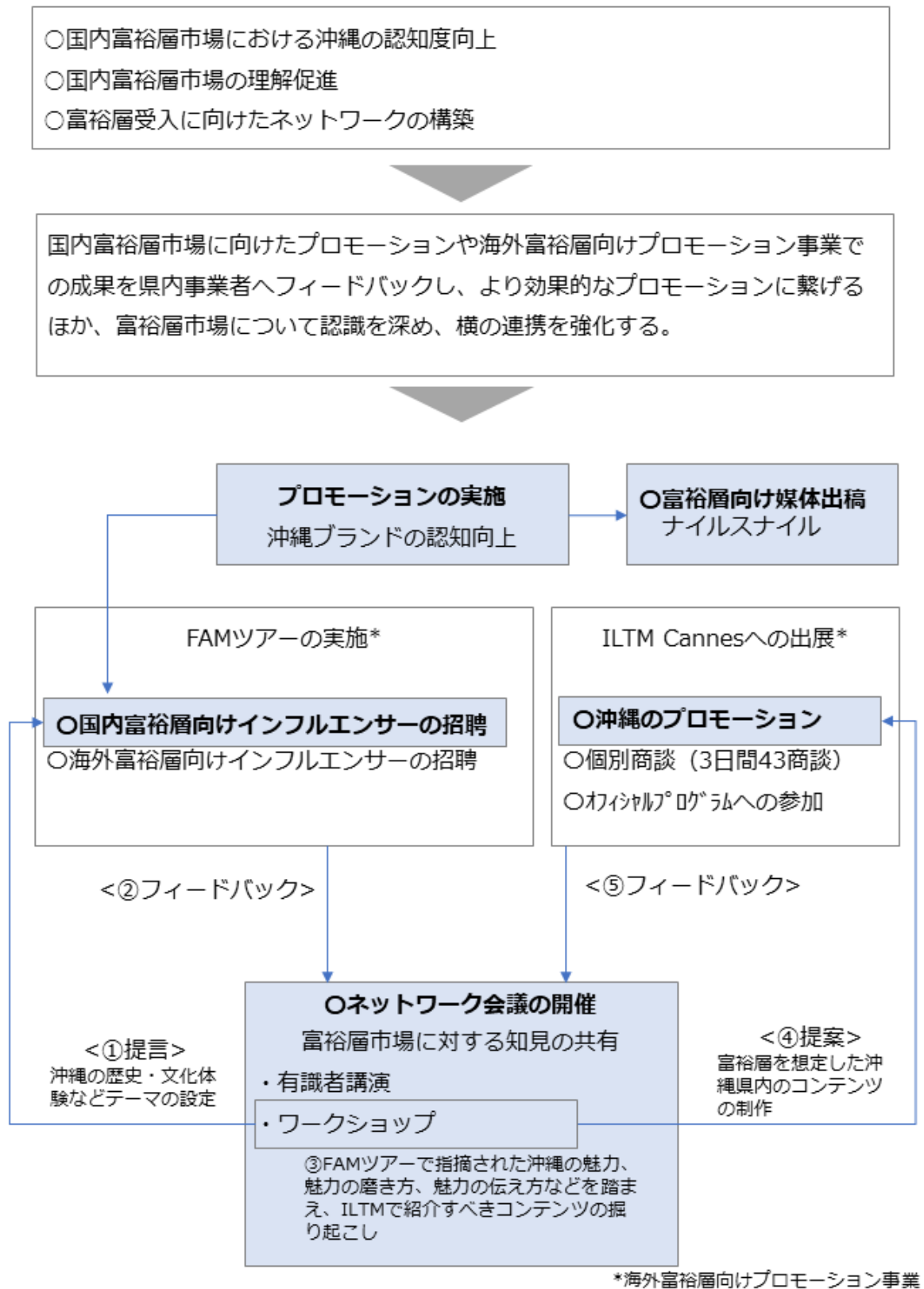
沖縄県は世界水準の観光リゾート地の形成を目指して、「沖縄 21 世紀ビジョン実施計画」において、観光収入 1.1 兆円、平均滞在日数 4.5 日、観光客数 1,200 万人の数値目標を掲げている。

これらの目標達成のためには、成長著しいアジア市場の獲得に加え、国内外の富裕層の獲得、欧米等の長期滞在型のリゾート需要を獲得する必要がある、「沖縄観光推進ロードマップ」において、市場分析と受入体制の整備状況に合わせた誘客施策を展開することとしている。本事業は、国内富裕層市場に向けた積極的なプロモーションを実施することで、富裕層客の獲得に繋げるものである。

1) 事業内容

- ①富裕層市場向け雑誌への出稿
- ②富裕層向けインフルエンサーの招聘
- ③県内観光関連事業者ネットワーク会議の開催

2) 事業全体の構成



2. 実施内容

1) 富裕層市場向け雑誌への出稿

雑誌「ナイルスナイル」へ、富裕層が好むような沖縄独自の「食文化」、「伝統文化」、「自然」にストーリー性を持たせた内容で、特別なラグジュアリー体験として発信した。

(1) 媒体選定理由

- ・会員宅へ無料送付されるほか、高級ホテル等のパブリックスペースへ配置されるため、ターゲットへ確実に届けることが可能。
- ・ライフスタイル全般（旅行専門媒体でない）で誌面構成されているため、沖縄の魅力を多角的に伝えることが可能。
- ・同時にWEBサイト「WEB-NILE」にも記事が掲載されるため、紙面とあわせた両面で訴求が可能。

(2) 概要、基本データ

【概要】

- ・発行形態：月刊（年間12回発行）
- ・発行部数：20,000部
- ・WEB-NILE：月刊PV 750,000 / UU 60,000
- ・会員数：約21,000名
- ・配布方法：会社経営者/医師/弁護士/会計士の富裕層の自宅に無料配布ほか、高級ホテルなどで配布。



【会員（読者）データ】

- ・平均年収：2700万円
- ・年に平均4回以上旅行する会員：45%
- ・1回の旅行で使う一人あたりの旅費が50万円以上の会員：46%

(3) 雑誌掲載ページ 9/27 発行号 (カラー見開き 8p)

- 1-2p 「“うとういむち”伝統の風、新しい風」のテーマで記事を掲載。
- 3p-4p 「やんばるとおいしく遊ぼう」をテーマに自然の中で地元食材を使用して楽しむグランピング体験を紹介
- 5p-8p 県内のラグジュアリーホテルが出稿

記事では、沖縄の文化をクラシックな体験とモダンな体験という視点から「本物」を追求した二つのプログラムを紹介。また、視覚的にも、首里城を中心とした赤（クラシック）と沖縄の海の青（モダン）というコントラストで読者にインパクトを与えることを狙った。

記事前半の琉球料理と芸能は、2019年5月に「琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な『琉球料理』と『泡盛』そして『芸能』」として認定されており、タイムリーな話題。伝統的な琉球料理を提供する店の一つとして、「美栄」を、琉球舞踊は、琉球王朝時代に栄えた琉球伝統芸能を上質な空間で表現することにより、踊奉行たちの理念を再構築することを目的としている一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室を取り上げた。

記事後半ではサバニで海に出て遊んだり、地元の魚はもちろん、地元の野菜やハーブなどやんばるにある食材を使った野外料理で自然を楽しんでもらうグランピング体験を紹介。内容はオーダーメイドということで、その人にしか味わうことのできない特別な体験として紹介。

県内のラグジュアリーホテルが県出稿とあわせて出稿した。これにより、「沖縄」の露出ボリュームが増加した。

〇1-2p (県出稿)



うとういむち
伝統の風、新しい風

伝統と革新、相反する言葉だが、それは共存するのが常である。沖縄では今、琉球王国時代の伝統を受け継ぐ食や芸能を体験できたり、厨外料理を楽しむたりできる。

PHOTO IONTI FANTUCCI / Text: Rie Nakajima

(上) 本舞臺(むらさきほのぼの)より、18〜19歳の若い女性の伝統的な衣装の中で日々あひだり(あひだり)の舞を舞う。舞臺は琉球王国時代の宮廷舞臺を模して作られた。この舞は、琉球王国時代の宮廷舞臺を模して作られた。この舞は、琉球王国時代の宮廷舞臺を模して作られた。

業者の思いを、料理や空間から感じてもらえたら」と女性の古波瀲(ふるなみ)子(こ)さん。今に伝わる琉球王国時代の宮廷文化の一つに琉球伝承芸能が受け入れられる。琉球伝承芸能や琉球古典舞臺などの宮廷芸能は、「国字」として外交のツールとされてきた。首里城だけでなく、江戸や薩摩の屋敷に「琉球行」を派遣して歌謡していた。と話す歌三線の柳井(やなぎい)で、沖縄県立芸術大学の山内(やまうち)昌也(まさや)さん。山内さんが代表を務める琉球伝承芸能デザイン研究室では、琉球王国時代に派生した歌三線と舞臺の、この縁(ゆかり)が、「美楽」での上演により島原の空間が誕生した。歌三線と舞臺の、この縁(ゆかり)が、「美楽」での上演により島原の空間が誕生した。歌三線と舞臺の、この縁(ゆかり)が、「美楽」での上演により島原の空間が誕生した。

027



いよいよ、邑色(いしよ)が1429年に沖縄本島を統一してから明治政府によって沖縄県(おきなわ)が設置される1879(明治12)年まで、約450年間続いた琉球王国(りゅうきゅう)は、中国や日本、東南アジア各国との中継貿易の地として繁栄した。琉球王国の政治、外交、文化の中心地として威容を誇ったのが首里城だ。中国皇帝の使者である冊封使や薩摩藩の役人などをもてなし(＝とうとういむち)、華やかで洗練された宮廷文化が展開した。舞臺や音楽を公衆とした「琉球行」や、宮廷の行事をすすめる「高丁」、美術工芸の技術者などが管理や振興などに文化芸術の中心地だったのだ。

026

(4) web 掲載面

本誌と同内容にて 10/1 より掲載。



琉球王国の中心地となった首里城。中央は儀式が行われた御庭、左の北殿は中国からの冊封使を饗應や宮廷料理でもてなした場所。

TRAVEL

うとしいむち 伝統の風、新しい風

Photo TONY TANIUCHI Text Rise Nakajima

伝統と革新。相反す言葉だが、それは共存するのが常である。沖縄では今、琉球王国時代の伝統を受け継ぐ食や芸能を体験できたり、やんばるの自然を舞台に新しいスタイルの“遊び”や野外料理を楽しめたりできる。クラシカルにモダンに、今までとは違う“沖縄を知る旅”へ。

尚巴志が1429年に沖縄本島を統一してから明治政府によって沖縄県が設置される1879(明治12)年まで、約450年間続いた琉球王国は、中国や日本、東南アジア各国との中継貿易の地として栄えた。琉球王国の政治、外交、文化の中心地として威容を誇ったのが首里城だ。中国皇帝の使者である冊封使や薩摩藩の役人などをてなし(=うとしいむち)、華やかで洗練された宮廷文化が発展した。舞踊や音楽を公務とした「踊奉行」や、宮廷の食事をあずかる「趣丁(ほーちゅー)」、芸術工芸の技術者などが首里や那覇などの都市部に住み、首里城を中心に活躍していた。つまり首里は、首里城とともに文化芸術の中心地だったのだ。

PAGE... ① | ② | ③ | ④ | ⑤ →



やんばるとおいしく遊ぼう!

沖縄本島の北部ーやんばる。ここでは豊かな自然を舞台に、やんばるでしか体験できない新しいカタチの“野外遊び”「やんばる野外手帖」を展開する。食のプロ集団がいる。やんばるを愛してやまない料理人と畑はる人さーがタッグを組んだ「やんばる畑人プロジェクト」だ。例えば、沖縄の伝統的な木造の舟、帆かけサバで海へ。途中、魚を釣ったり、サンゴを見たり、潮風を受けてゆったりと舟に揺られる。そんな貴重な体験を指南してくれるのが、プロジェクトの発起人の一人、漁名匠吾(まんなしょうご)さんだ。

海辺で「アカジン(アカハタ)のサンゴ窯し」を作ってくれた「やんばる畑人プロジェクト」のメンバー。左から、発起人の一人の漁名匠吾さん、事務局の小泉伸弥さん、装飾担当の樽渕ちほるさん。

やんばる畑人プロジェクト www.haruser.jp